

人手不足乗り越える 働き方改革考える

振興基金が経営者研修

建設業振興基金（振興基金、佐々木基理事長）は15日、東京都港区の振興基金で第23回建設業経営者研修を開いた。写真。テーマは「人手不足を乗り越えるための働き方改革とは」。全国から中小建設業の経営者や後継者、経営幹部が約60人参加。働きがいのある職場づくりを注ぐ企業や建設現場での女性活躍を後押しする経営者が登壇し、それぞれの取り組みを紹介した。

冒頭、佐々木理事長は「建設業界は仕事の形態が請負だったり日給月給制の人が多かったりと、もともと抱える問題に起因して働き方改革が遅れている。だが若い担い手を確保していくには働き方改革は避けて通れない。しっかり週休2



日制をとって成果を挙げている企業も出ている。特に職人の処遇を改善していくには建設キャリアアップシステムは絶対に必要だと思っている。今日の研修を有意義なものにしてほしい」とあいさつした。

研修ではまず、櫻井好美アスミル社会保険労務士事務所代表が「建設業における働き方改革」をテーマに講演。働き方改革の本来の目的は生産性向上だとし、現実を受け止め、できるこ

とから行動するよう呼び掛けた。

大矢洋平正治組土木部部長が「自分の働き方は自分で考えた方が面白い」、倉田祐輔倉田工業代表取締役が「女性事務員も活躍 ICT建機が変える重機オペレーターの育成」、西岡徹人三承工業代表取締役が「生きがい、やりがい、働きがいのある職場づくりとは」をテーマにそれぞれ講演した。

パネルディスカッションには講演者に加え、東京都立総合工科高校の東君康先生、国土交通省土地・建設産業局建設市場整備課の藤本真也建設市場整備推進官が登壇。「建設業における働き方の在り方」をテーマに意見を交わした。振興基金が運営主体の建設キャリアアップシステムの利用方法なども説明した。